



安原先生は経済に関する本を紹介してくださいました。アメリカがくしゃみをすれば日本は風邪を引く、とは昔からの言葉ですが、先を行くアメリカの経済を知るとは自分たちが社会に出る頃の日本の経済を知ることにはほかなりません。

### 経済の本

数学科 安原敏夫

雑誌を除けば、もう久しく本を読んだ覚えがなかった。数学関係の読み物の本はよく購入するが、それでさえほとんど読まない。購入して本棚に並べると読んだ気になり満足してしまっているのが現状である。しかしながら、経済の動きには若干の興味があり、テレビの経済情報番組は毎日見ている。今、世の中ではどんなビジネス（商売）が流行っているのか、従来ではなかったような新しいビジネスが展開されていることに驚く。経済は絶えず変化しその動きは急激である。企業が生き残るために常に新しいビジネス展開を模索していることがよくわかる。これらの変化はもちろん、私たちの生活に関係してくる。そこに興味を覚えるのである。

そこで今回、最近興味を持った経済に関する本3冊を紹介したいと思う。高校生の皆さんにはまだ馴染まないかもしれないが、後に述べるように常にこのような情報にはアンテナを高くしておいてほしいと思うからである。

#### 『サイロ・エフェクト 高度専門化社会の罨』

シリアン・テット著

シリアン・テット氏は文化人類学者であり、英フィナンシャル・タイムズ社アメリカ版編集長である。過去には東京支局長を務めたこともある。「サイロ」とは牧場等にある牧草や穀物の貯蔵庫である。高度に複雑化した社会に対応するため、大きな組織では各部署が専門化し、ゆえに部署同士の交流が乏しくなり、「サイロ」のように孤立した部署が多数できやすくなる。誰も自分のサイロ以外で何が起きているか知らず、知ろうともしなくなり、結果世の中の変化に対応できなくなっていく。これがサイロ・エフェクトである。テッド氏は、なぜサイロが形成されるのか。我々はサイロをコントロールできるのかについて8つの事例をあげて考察している。日本人としては、その中で特にソニーがアップルに大敗したエピソードは興味深い。日本の基幹産業であり高い技術力で世界を席卷してきた家電・電子産業がなぜこんな短期間に凋落してしまったか。その答えを探することは日本経済にとって重要である。他の産業についてもいつ同じようなことが起こるか分からないからである。テッド氏の組織論は貴重な示唆を与えてくれる。



# 世界は驚く動かない『ZERO to ONE』安原敏夫

#### 『HARD THINGS

答えがない難問と困難にきみはどう立ち向かうか』

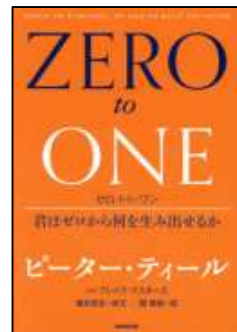
ベン・ホロウィッツ著

ベン・ホロウィッツ氏は1999年ラウドクラウドというベンチャー企業を設立し、その後この会社を16.5億ドルでヒューレット・パカードに売却した。現在はその資金でアメリカシリコンバレー拠点のベンチャーキャピタル（ベンチャー企業に投資し起業家のサポートをする事業）、アンドリーセン・ホロウィッツを共同創業し、次世代の最先端テクノロジー企業を生み出す起業家に投資をしている。この本では、ラウドクラウドCEO（最高経営責任者）時代に経験した艱難辛苦の数々、リアルな現実が生々しく語られている。マイクロソフトとの死闘、バブルの崩壊、最大顧客の倒産、上場廃止、3回の大規模レイオフ（社員解雇）などヒト、モノ、カネすべてにおける困難を経験し、精神的にも肉体的にも極限状態の中、それでもなおそのすべてを切り抜け、最終的に16.5億ドルという巨額での売却を成功させた。新しいことをしようとしている人にとっての道しるべとして非常に貴重であり、あらゆる困難に立ち向かう人に知恵と勇気を与えてくれる。



#### 『ZERO to ONE 君はゼロから何を生み出せるか』

ピーター・ティール著



ピーター・ティール氏は1998年ペイパルを共同創業、後にこの会社を15億ドルでイーベイに売却、現在その資金で人工知能、宇宙開発、エネルギーといった注目分野のベンチャー企業に投資している。彼がスタンフォード大学で行った起業に関する授業からこの本は生まれた。この中では文字通り0から1へ、「全く新しい何かを生み出すこと」に専念する姿勢が、世界を進歩させることに欠かせない。

みんなが同じところで競争するせめぎ合いに時間を浪費するのではなく、誰もいない市場で独占出来るような大きな発明をしろと主張している。単なるテクニックを説くのではなく哲学を説くような内容である。

先にも書いたがこれらの本の内容は高校生の皆さんにはまだ馴染まない内容かもしれない。しかしながら今世界は激変しており、今まで予想だにできなかったことが起こっている。SHARP、東芝、三菱自動車、今日まで日本を牽引してきた製造業はまさに危機に瀕している。誰がこのような事態が起こることを予想できたであろうか。これから皆さんはこのような想定外の事態が起こり得る時代を生きていかねばならない。特に「ZERO to ONE」の中にも書かれているが、そう遠くない未来（皆さんが生きている間に）、現在考えられる“人間のする仕事”の半数近くが機械（ロボット、人工知能）に取って代わられるといわれている（シンギュラリティ）。これは皆さんにとっても身に迫る問題であろうと思う。何が正解か分からないなかで、今までとは全く違う新しい何かを創造していかねばならない。高いアンテナを張って、世の中の動きに敏感になり、そして熟慮する姿勢を持ってもらいたい。